



中国四国

<http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/>

第27号
平成27年1月発行

中国四国防衛局長「年頭の挨拶」

2015年



(芹澤清中国四国防衛局長)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
平素から中国四国防衛局へのご支援、ご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

昨年は、広島市における土砂災害をはじめとする自然災害への対応や、米海兵隊空中給油機KC-130の岩国基地への移転に関わる事業など、さまざまな案件に取り組んでまいりました。

今年も管内には種々の課題が山積しておりますが、地元の皆様方のご意見に耳を傾け、地域の皆様と防衛省・自衛隊を結ぶ架け橋となるべく、職員一同より一層の努力を傾けてまいります。

皆様方の変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

CONTENTS

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| ①中国四国防衛局長「年頭の挨拶」 | ⑦日米交流事業(周防大島日米子供サッカー) |
| ②防衛大臣感謝状贈呈(岩国市長) | ⑧セーフティ・ブリーフィング |
| ③中国四国防衛局長感謝状贈呈(周防大島町長、和木町長、香南市長) | ⑨在日米軍従業員安全衛生講習会開催 |
| ④中国四国防衛局長感謝状贈呈(事業者3社) | ⑩岩国基地ユニホーム・ページェント |
| ⑤防衛省装備施設本部長感謝状贈呈 | ⑪平成26年度中国四国防衛施設地方審議会開催 |
| ⑥在日米軍従業員永年勤続者表彰式 | ⑫運貨船「YL-16」進水式典 |
| | ⑬航空自衛隊用77式重物料投下器材の投下試験 |



Chugoku-Shikoku
Defense-Bureau

編集・発行 中国四国防衛局
〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6-30
Tel. 082-223-7109



防衛大臣感謝状贈呈(岩国市長)

平成26年10月25日、グランドヒル市ヶ谷(東京都新宿区)において、平成26年度防衛大臣感謝状の贈呈式が行われました。防衛大臣感謝状は、防衛協力功労や自衛官募集で功績のあった方々を表彰するもので、今年度は個人66名、団体70件に江渡防衛大臣(当時)から感謝状が贈呈されました。

当局関係では、当省の防衛施設の安定的使用に多大な貢献をされた防衛協力功労者として、福田良彦岩国市長に感謝状が贈呈されました。



(江渡防衛大臣(当時)(写真右)と福田岩国市長(写真左))



(会場風景)



(西防衛事務次官(写真左)と福田市長(写真右))

中国四国防衛局長感謝状贈呈(周防大島町長、和木町長、香南市長)

中国四国防衛局長感謝状は、当局業務の円滑な運営と防衛施設の安定的な使用に対し積極的な協力と多大な貢献をされた方々を表彰するものであり、平成26年度自衛隊記念日にあたり、椎木巧周防大島町長、米本正明和木町長、清藤真司香南市長に、芹澤中国四国防衛局長から感謝状を贈呈しました。



(周防大島町長(写真右)に感謝状贈呈)



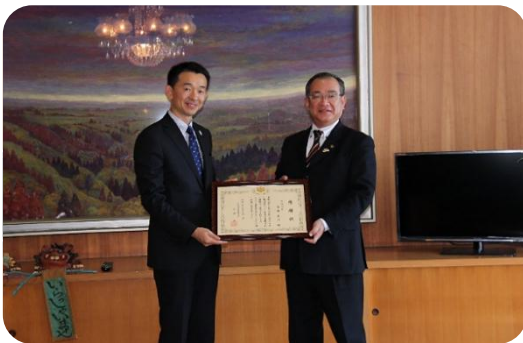
(周防大島町長(写真右)との懇談)



(和木町長(写真左)に感謝状贈呈)



(和木町長(写真右)との懇談)



(香南市長(写真右)に感謝状贈呈)



(香南市長(写真右)との懇談)



中国四国防衛局長感謝状贈呈(事業者3社)

岩国飛行場米軍再編事業及び自衛隊施設整備事業の建設工事において、重要な施設を完成させ、我が国の防衛に対する深い理解のもと、当局の業務遂行に積極的に協力されたとして、芹澤中国四国防衛局長から感謝状を贈呈しました。

対象企業・工事

- ・株式会社 奥村組四国支店 <高知(23)射場新設建築工事>
- ・日立建設 株式会社 <岩国飛行場(H24)倉庫新設土木工事>
- ・六興電気 株式会社 中国支店 <岩国飛行場(H22)整備格納庫新設電気工事>

感謝状贈呈式



株式会社 奥村組
四国支店



日立建設 株式会社



六興電気 株式会社
中国支店



感謝状を贈呈された企業の代表者

防衛省装備施設本部長感謝状贈呈

防衛省装備施設本部において、例年、業務の円滑な遂行に協力又は援助があり、その功労が著しいと認められる企業に、感謝状が贈呈されております。

本年度は、中国四国防衛局の関連事案である「1術校（24補）護岸改修土木その他工事」を施工した、株式会社芳信建設が対象企業の1つとして選定され、装備施設本部長から感謝状が贈呈されました。

功労の概要

海上自衛隊第1術科学校における当該工事は、VIPや海外からの来賓の出迎えや見送りの行われる「表棧橋」の改修を行うもので、他の歴史的建造物群との調和を図り、由緒ある第1術科学校に相応しい改修工事を行ったものです。

また、卒業式や学生の訓練のため、時間的制約が多く工程管理の面で難しいものでしたが、関係者との調整を積極的に実施し、工事が部隊運用に影響を与えないよう部隊行事に合わせ工程を組み替える等柔軟な対応を行い、工期を延長することなく完了させました。

<装備施設本部長感謝状贈呈式>

平成26年11月21日、防衛省にて中央調達60周年記念行事が行われ、その中の感謝状贈呈式にて装備施設本部長から対象企業に感謝状が贈られました。



株式会社 芳信建設



海上自衛隊第1術科学校
(護岸改修工事)



在日米軍従業員永年勤続者表彰式

【呉地区】



(表彰者代表(写真左)による謝辞)

平成26年10月8日、爽やかな秋晴れの下、在日米陸軍第10地域支援群弾薬廠に勤務する在日米軍従業員（本年度対象従業員39名）の永年勤続者表彰式が、呉市のビューポートくれホテルにおいて開催されました。国側からは、芹澤局長及び防衛省地方協力局二又労務管理課長等が、米軍側からはラリーR.ムーア廠長等が、独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構からは栢田理事長等が出席し、来賓として呉市長代理である中本副市长等のご臨席を頂き、盛大に式典が行われました。

勤続30年、20年及び10年を迎えたそれぞれの受賞者へ芹澤局長及びムーア廠長から表彰状並びに記念品が授与され、また一人一人記念写真の撮影が行われるなど、粛々とした中にも心温まる表彰式となりました。表彰式終了後には、参加者の方々の懇親会が行われました。

【岩国地区】

呉地区に引き続き、10月21日、米海兵隊岩国航空基地に勤務する在日米軍従業員（本年度対象従業員109名）の永年勤続者表彰式が、同基地内のクラブ岩国において開催されました。国側からは芹澤局長等が、米軍側からはロバートV.ブシェー司令官等が、独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構からは栄業務部長等が出席し、来賓として岩国市長代理である産業振興部長等のご臨席を頂き、盛大に式典が行われました。

勤続40年、30年、20年及び10年を迎えたそれぞれの受賞者の代表者へ芹澤局長及びブシェー司令官から表彰状並びに記念品が授与され、また勤続年数ごとに記念写真の撮影が行われました。表彰式終了後の懇親会では、参加者の方々の談笑があちらこちらで見うけられなど、終始和やかなムードで式典は滞りなく終了しました。



(芹澤局長から表彰者へ記念品の手交)



勤続40年の
クリスタル



勤続30年のメダル



勤続20年のメダル



勤続10年のメダル

(記念品)

日米交流事業(周防大島日米子供サッカー)

中国四国防衛局は平成26年10月19日、周防大島町陸上競技場で「SUO-OOSHIMA日米子供サッカー」を開催しました。このイベントは、米海兵隊岩国航空基地周辺の住民の方々と基地関係者の相互理解を深めるため実施したもので、日米子供サッカーは、今回初めて開催しました。

開会にあたり、主催者の芹澤局長から「日米交流を更に拡大させるため、新たに、豊かな自然と美しい海に囲まれた周防大島で開催することとなった。サッカーを通じてお互いにふれあいながら、たくさん友達を作って楽しんで欲しい。」旨の挨拶がありました。

来賓の西川敏之周防大島町教育長から「瀬戸内のハワイと言われている周防大島町は、町民一人一人がアロハの心、「おもてなしの心」で訪れる人を迎えており、サッカーという競技を通じ、友情の輪を深めて欲しい。そして、何度もこの周防大島町に来て頂き、日米交流の輪を深めて頂きたい。」旨、椎木巧町長の挨拶を代読され、米海兵隊岩国航空基地司令官のロバートV. ブシュー大佐から「スポーツは国際的な言語であり、新しい友達を作りながら楽しい時をともに過ごすことで、隔てる壁を感じることなくコミュニケーションを行うことができる。このような子供の頃の交流は、後の人生の相互理解の素晴らしい礎を築いてくれる。」旨の挨拶がありました。

当日は、周防大島町内サッカースポーツ少年団及び米海兵隊岩国航空基地ユースサッカーの7才から9才までの児童約40名が参加し、日米混合チームによる練習や試合を楽しみました。

最初はぎこちなかった日米の児童も、練習や試合を通じて互いに協力しながら交流を深めていくことができ、最後に、固い握手を結び閉会となりました。

参加した児童からは、「おもしろかった。また一緒にサッカーしたい。」保護者からは「サッカーを通じて喜びや悔しさを同じように感じていて、言葉の壁は無いように思えた。」などの感想が寄せられました。



(会場入口の案内)



(日米の国旗及び
周防大島町の町旗)



(日米合同チームによる試合の様子)



(昼食時の風景)



(記念写真)

セーフティ・ブリーフィング

米海兵隊岩国航空基地主催による「セーフティ・ブリーフィング」が平成26年11月24日に同基地内サクラシアターで開催され、芹澤局長及び福田岩国市長が、約1,000人の海兵隊員に英語でブリーフィングを行いました。

セーフティ・ブリーフィングは、基地内各担当者が夏及び冬の長期休暇などを前に基地に所属する隊員を対象に年2回、安全意識等の向上を図るために行われています。

当局は平成20年度から、岩国市は平成21年度より年1回参加しブリーフィングを行っております。

開催にあたってロバートV. ブシュー基地司令官は「責任ある行動を取ること、基地外では特にしっかりとした行動を取ること。岩国は地元と良好な関係を続けているが、事件・事故等があれば良好な関係に影響を及ぼすこととなるなど」と述べました。

芹澤局長は、日本とアメリカ合衆国の地勢的相違、米軍構成員による事件・事故等が発生した場合の地域社会に与える影響や信頼関係、地域住民との交流などの意義を説明するとともに、本年8月、岩国市と和木町で発生した土砂災害時に、岩国基地の皆様からの復興支援に感謝の意も述べました。また、最後に日本の名勝として地元岩国市の「錦帯橋」と、広島県の「厳島神社」等を紹介しました。



(ブリーフィングの全景)



(ブリーフィング内容の一部)



(画面を示し説明する芹澤局長)

在日米軍従業員安全衛生講習会開催

中国四国防衛局（岩国防衛事務所）では、米海兵隊岩国航空基地で働く在日米軍従業員の健康の保持増進を目的として様々な安全衛生講習を行っています。今年度は、次の2件の講習会を実施しました。

①平成26年度 メンタルヘルス(セルフケア)講習会

平成26年7月8日（1回目）及び同年10月23日（2回目）に、米海兵隊岩国航空基地内において、ストレスマネジメントの手法を習得することによりメンタル的な傷病の減少及び予防するとともに、職場の士気と生産性の向上を目的として、在日米軍従業員の新規採用者を対象に実施しました。

②平成26年度 メンタルヘルス(コーチング)講習会

平成26年10月29日に、米海兵隊岩国航空基地内において、コーチングスキルを学習し、部下との円滑なコミュニケーション能力を高め、より効果的にメンタルヘルスカケアを行う方法の取得を目的として、在日米軍従業員の管理職を対象に実施しました。



(第2回目のセルフケア講習風景)



(コーチング講習風景)

岩国基地ユニホーム・ペイジェント

平成26年11月5日に米海兵隊岩国航空基地内司令部前にて、「ユニホーム・ペイジェント」が開催されました。アメリカ海兵隊は、アメリカ独立戦争中の1775年11月10日に設立された大陸海兵隊を起源としているとの説明がありました。



(海兵隊創設239年を祝うケーキ)



(1775年 創立時)



(1812年 米英戦争時)



(1848年 米墨戦争時)



(1917年第一次世界大戦時)
(1918年女性隊員参戦)



(現在の装備)



(合衆国旗 海兵隊旗 掲揚)
(歴代の海兵隊の制服を着用した隊員)

平成26年度中国四国防衛施設地方審議会開催



芹澤局長挨拶



野坂会長挨拶

平成26年12月4日、KKRホテル広島において、野坂文雄会長（もみじ銀行代表取締役頭取）をはじめとする7名の有識者の委員と芹澤局長ほか担当職員が出席し、中国四国防衛施設地方審議会を開催しました。

同審議会は、当局の伊藤企画部長からKC-130の移駐、空母艦載機の移駐について説明を行い、また当局の丸山調達計画課長からは、米軍再編事業に係る建設工事について説明を行いました。これに対して委員からは、様々な角度からの意見が出され、有意義な審議会となりました。



米海兵隊岩国航空基地報道部からの概況説明



US-2のシミュレータ体験



海自第31航空群首席幕僚からの概況説明

午後からは、委員に対して防衛施設の運用及び防衛行政への理解を深めて頂くことを目的として、現地研修を実施しました。

米海兵隊岩国航空基地においては、マイケルJ. カレイロ副司令官表敬後、報道部チーフから概況説明を受け、同チーフ案内の下、基地内施設の視察を行いました。

また、海上自衛隊第31航空群においては、大瀬戸功群司令表敬後、首席幕僚から概況説明を受け、飛行場地区へ移動し、US-2のシミュレータを体験しました。

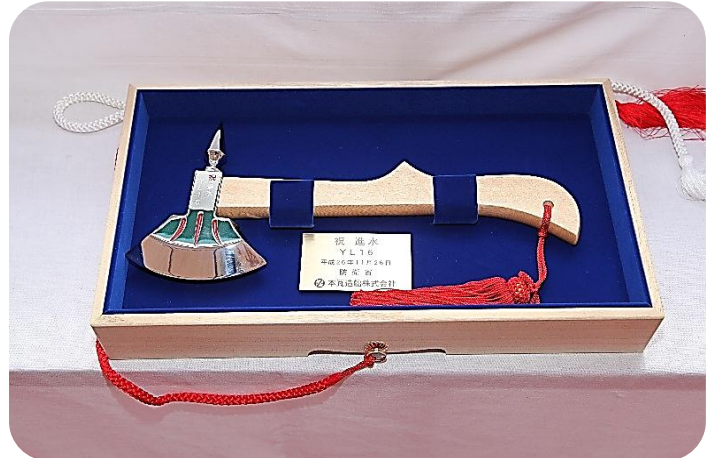
運貨船「YL-16」進水式典

平成26年11月26日、広島県福山市の本瓦造船(株)で運貨船(50トン型)の進水式典が行われました。

式典は厳かに行われ、中国四国防衛局の福島調達部長による「YL-16」の進水式では、進水斧が振り下ろされると支綱が切断され、船は静かに備後灘(びんごなだ)に進水しました。

「YL-16」は、海上自衛隊の基地港湾内で荷役作業を行う支援船で、今後は各種ぎ装、海上公試を経た後、今年度末に横須賀地方隊に配備される予定です。

福島調達部長は、「海洋国家日本の周辺海域の安全保障等には自衛艦船は不可欠、それを支える支援船の役割はますます増すばかりであり、今後の監督、検査を適正に実施し、部隊に引き渡したい。」と述べました。



(進水式典風景)

航空自衛隊用77式重物料投下器材の投下試験

(玉野防衛事務所)

平成26年12月9日から2日間、航空自衛隊美保基地において、納入予定の77式重物料投下器材の主要な構成品となる落下傘の投下試験を、第3輸送航空隊(司令高橋1空佐)の全面支援を受けて実施しました。

この器材は、航空機から物資を投下する際に使用されるものです。

投下試験では、強風による投下中止に悩まされながらも、当初の予定を消化し、供試品が正常に開傘し、安定した着地ができることを確認しました。



(C-1輸送機に搭載された供試品)



(投下試験風景)